

令和7年度 シラバス

科目名	社会福祉概論 (30)時間	前期	第 I 学科1学年	講 師	山口 信治
到達目標	暮らしを守る公(公)の社会保障制度の一環社会福祉をまなぶ				
履修上の注意	レポート取り組みに期待				
成績評価方法	出席、レポート提出20% 試験80%				
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉(医学書院)				
参考書					

回 数	項 目	授業内容
第1回目	暮らしを下支えする社会的仕組み	テキスト、はしがきよりキーワードを探る
第2回目	暮らし(生活)	くらし(人、時、場) 生活苦 第8章ライフ、QOL
第3回目	二大制度	暮らしを下支えする二大制度
第4回目	イギリスの社会保障	礎を築いた人々と活動 第9章参照
第5回目	二大制度の比喻	二大制度 美しい森にたとえ そのマザーツリー
第6回目	保障	保障「果実」 所得保障と対人社会サービス
第7回目	社会保障制度の動向	社会保障、社会福祉の動向 第2章B
第8回目	社会福祉	社会福祉(1)分野:子、高齢者、障害者福祉
第9回目	社会福祉	社会福祉(2)
第10回目	社会福祉の支援、技術	社会福祉(3)社会支援ケースワーク 第8章AB
第11回目	社会福祉の支援、技術	社会福祉(4)社会支援グループワーク 第8章C
第12回目	社会福祉の支援、技術	社会福祉(5)社会的支援 間接援助技術 第8章D
第13回目	社会福祉の支援、技術	社会福祉(6)社会的支援、人的資源
第14回目	連携という社会的技術	制度の活用 「連携」をキーワードに
第15回目	制度と倫理	福祉制度の課題 制度づくりは人なり 倫理上のジレンマ 第8章E
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	コミュニケーション演習 (30)時間	前期	第Ⅰ学科1学年	講 師	吉田 峻
到達目標	理学療法士、社会人としてのコミュニケーション力について学ぶ。				
履修上の注意	授業前に教科書を準備し着席。遅刻者は担当教員に理由を述べ着席。早退(途中退室)も同様。				
成績評価方法	学科試験100% (出席状況により加点、減点有り。)				
教科書	特になし				
参考書	配布資料				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	オリエンテーション コミュニケーションとは	理学療法士にとってコミュニケーションとは 自己紹介
第2回目	医療者になるための準備	PTを目指すあなたへ
第3回目	医療者になるための準備	自分を理解しよう(自己肯定感診断)
第4回目	医療者になるための準備	コミュニケーション力を育もう
第5回目	医療者になるための準備	自律した自分になろう
第6回目	会話上手になるためには①	会話上手になるために
第7回目	会話上手になるために①	会話上手になるために
第8回目	社会人のマナーとしての コミュニケーション①	身だしなみについて
第9回目	社会人のマナーとしての コミュニケーション②	挨拶について
第10回目	社会人のマナーとしての コミュニケーション③	電話対応について 電話のかけ方
第11回目	社会人のマナーとしての コミュニケーション④	実習先へのお礼状の書き方
第12回目	社会人のマナーとしての コミュニケーション⑤	電子メールのマナー
第13回目	ヒヤリハットと医療事故	ヒヤリハット事例と医療事故と対処法
第14回目	問診情報収集①	医療現場での必要な情報収集の実践①
第15回目	問診情報収集②	医療現場での必要な情報収集の実践②
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	科学の基礎 (30)時間	前期	第Ⅰ学科1学年	講 師	安田 美紀
到達目標	人体運動に必要な基礎知識について理解を深める。				
履修上の注意	私語など他の学生および講義進行の迷惑にならないよう留意すること。				
成績評価方法	学科試験100%(出席状況により加点、減点有り)				
教科書	基礎運動学(医歯薬出版)				
参考書	プロメテウス(医学書院)、からだが見える(メディックメディア)				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	授業説明	理学療法士にとって人体運動の必要性。講義内容説明
第2回目	生体の構造	運動器(骨格・筋)と神経系について
第3回目	身体運動	身体運動の面と軸 身体に働く力について
第4回目	身体運動	筋活動について
第5回目	身体運動	身体に働く力について (筋力と外力・てこ・人体とてこ・滑車)
第6回目	身体運動	
第7回目	身体運動	
第8回目	姿勢	姿勢と重心 立位姿勢に働く力
第9回目	姿勢	姿勢と重心 立位姿勢に働く力
第10回目	体幹 股関節 膝関節 足関節 の アライメントについて	立位姿勢において、体幹・股関節・膝関節・足関節に働く力
第11回目		
第12回目		
第13回目		
第14回目	歩行について	歩行の基礎、歩行時における関節・筋活動、歩行における推進力
第15回目	講義まとめ	講義まとめ
備考	上記内容は講義の進行状況などにより変更することがある	

令和7年度 シラバス

科目名	健康科学 (30)時間	前期	第Ⅰ学科1学年	講 師	臼井 達矢
到達目標	現代社会において、運動不足や食習慣の乱れ、睡眠不足や身体的・精神的ストレスなど様々な健康問題が指摘されており、これらの原因に伴い生活習慣病や精神的な疾患を引き起こすとされている。特に近年では、コロナ禍に伴う行動自粛や新しい生活様式による生活習慣の変化における健康課題が多く指摘されており、急務に改善しなければいけない社会問題となっている。以上のことから、様々な年代における健康問題や病気の知識、その改善方法を学び、健康の三大要因である「運動」「栄養」「休養」の観点から健康問題について考え、理解することを目標とする。				
履修上の注意	授業はパワーポイントのスライドを用いて行い、その内容を踏まえてワークシートを完成させる。授業にて多くの資料を配布するため、資料をまとめるファイルなどが必要となる。				
成績評価方法	授業内課題(15%)、振り返りシート(15%)、受講状況(10%)、期末テスト(60%)で評価を行う。				
教科書	特になし				
参考書	参考図書については授業にて適宜説明する				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	健康とは①	健康とはどのような状態なのか、健康の定義とは、現代社会の変化と健康、健康と脳
第2回目	健康とは②	前頭葉の働きと健康、前頭葉の働きとは、前頭葉を活性化させるには
第3回目	健康とホルモン①	健康に欠かせないホルモンの働き、幸福感と健康、セロトニンと健康
第4回目	健康とホルモン②	オキシトシンと健康、ドーパミンと健康、側坐核を刺激するには、男性脳と女性脳
第5回目	健康の土台と幼児期	スキャモンの発達曲線、ゴールデンエイジ、プレゴールデンエイジ
第6回目	健康の土台と共感脳	共感脳とは、身体行動の共有と健康、共感脳を高めるための仕掛け
第7回目	健康の土台と母親	母親の健康と子どもの健康との関連、母親の低栄養、母親のストレス、受動喫煙
第8回目	自律神経と健康①	自律神経とは、交感神経と副交感神経の働き、自律神経の神経伝達
第9回目	自律神経と健康②	自律神経を簡易的に評価、自律神経の乱れと病気、自律神経活動を高めるには
第10回目	睡眠と健康①	睡眠不足と健康被害、現代社会の睡眠環境、睡眠負債とは
第11回目	睡眠と健康②	睡眠時間の変化、社会的時差ボケと健康、睡眠時間と健康、睡眠不足と肥満
第12回目	睡眠と健康③	体内時計遺伝子の働き、体内時計の乱れと健康、睡眠の質と海馬、睡眠ホルモンと健康
第13回目	肥満、痩身予防と健康①	肥満の原因とは、肥満と病気、肥満の種類、脂肪細胞の働き
第14回目	肥満、痩身予防と健康②	肥満予防に向けた運動と食事とは、痩身と健康、痩身と脳、痩身とストレス
第15回目	まとめ	前期実施分の振り返り、期末試験対策、後期「運動生理学」に向けて
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	医療倫理 (30)時間	前期	第 I 学科1学年	講 師	吉田 峻
到達目標	医療倫理とは何かを学び、倫理的配慮について考える経験を積む。				
履修上の注意	グループ発表もするので積極的な参加をお願いします。				
成績評価方法	中間試験・期末試験(50%) グループ発表(50%)				
教科書	特になし				
参考書	その通度紹介します。				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	オリエンテーション	医療倫理とは
第2回目	患者の権利	インフォームドコンセント
第3回目	患者の権利	パターナリズム
第4回目	患者の権利	ヘルシンキ宣言について
第5回目	グループディスカッション	症例1
第6回目	グループディスカッション	症例2
第7回目	グループディスカッション	症例3
第8回目	グループディスカッション	症例4
第9回目	グループディスカッション	症例5
第10回目	グループディスカッション	症例6
第11回目	グループディスカッション	症例7
第12回目	グループディスカッション	症例8
第13回目	グループディスカッション	症例9
第14回目	グループディスカッション	症例10
第15回目	総復習	総復習
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	医学用語 (30)時間	前期	第Ⅰ学科1学年	講 師	安田 美紀
到達目標	リハビリテーションの臨床で活用する医学英語を通して、理学療法についての概略を理解する。				
履修上の注意	私語を慎み、主体的に参加すること。				
成績評価方法	学科試験100%(出席状況・小テストにより加点、減点有り)				
教科書	リハビリテーションの基礎英語(メジカルビュー社)				
参考書	都度配布				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	INTRODUCTION	運動と身体:健康を保つために①
第2回目	INTRODUCTION	運動と身体:健康を保つために②
第3回目	CHAPTER I	リハビリテーションとは①
第4回目	CHAPTER I	リハビリテーションとは②
第5回目	CHAPTER II	リハビリテーションのための人体の基礎知識①
第6回目	CHAPTER II	リハビリテーションのための人体の基礎知識②
第7回目	CHAPTER III	人体の構造①
第8回目	CHAPTER III	人体の構造②
第9回目	CHAPTER III	人体の構造③
第10回目	CHAPTER V IV	疾患とリハビリテーション①
第11回目	CHAPTER V IV	疾患とリハビリテーション②
第12回目	CHAPTER V IV	疾患とリハビリテーション③
第13回目	CHAPTER V IV	疾患とリハビリテーション④
第14回目	CHAPTER V IV	疾患とリハビリテーション⑤
第15回目	APPENDIX	リハビリテーション医療に関する略語
備考	上記内容は講義の進行状況などにより変更することがある	

令和7年度 シラバス

科目名	解剖学Ⅰ (60)時間	前期	第Ⅰ学科1学年	講 師	小倉 基裕
到達目標	理学療法士が必要な人体の基本的な構造・機能まで含めた臓器、特に運動機能とその調節について必要な科学的知識を身につけ、リハビリテーションに際し実践できる知識を得る目標を持つ。				
履修上の注意	解剖学を理解する為には、解剖学の「からだの構造」、生理学の「からだの機能」の知識を統合させる必要がある。丸暗記でなく、「なぜそうなるのか」を「考える姿勢」を身につける。国家試験への対策を含めて、より深く解剖学の知識を深める。専門科目へと進み、疾患を理解し、その機能を回復させるうえでも必須である。				
成績評価方法	小テスト(50%)、本試験(50%)				
教科書	主教科書: グレイ解剖学 秋田恵一訳 エルゼビアジャパン 副教科書: 早わかり 解剖学 ナツメ社				
参考書	ネッター解剖学図譜－学生版 丸善 プロメテウス解剖学 医学書院 標準理学療法学 解剖学 医学書院				

回 数	項 目	授業内容
第1・2回目	総論-1	細胞(構造、増殖と分化)、上皮と結合組織
第3・4回目	総論-2	軟骨と骨、関節、筋(収縮とエネルギー)
第5・6回目	総論-3	神経、シナプス、神経筋接合部、筋紡錘
第7・8回目	運動器-1	脊椎(椎骨と椎間板)
第9・10回目	運動器-2	頸椎・胸椎・腰椎の特徴、脊椎のカーブ
第11・12回目	運動器-3	脊椎の靱帯、背筋と腹筋
第13・14回目	運動器-4	上肢帯(鎖骨、肩甲骨)とその運動に携わる筋
第15・16回目	運動器-5	肩甲骨と肩甲周囲筋
第17・18回目	運動器-6	腕神経叢と上肢の血管
第19・20回目	運動器-7	肘関節とその運動に携わる筋
第21・22回目	運動器-8	手・指関節とその運動に携わる筋
第23・24回目	運動器-9	骨盤、腰仙骨神経叢
第25・26回目	運動器-10	股関節とその周囲筋
第27・28回目	運動器-11	膝関節とその運動に携わる筋
第29・30回目	運動器-12	足関節とその運動に携わる筋、下肢の血管
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	生理学Ⅰ (60)時間	前期	第Ⅰ学科1学年	講 師	小倉 基裕
到達目標	理学療法士が必要な人体の基本的な構造まで含めた臓器、身体の生理機能(働き)、特に運動機能とその調節について必要な科学的知識を身につけリハビリテーションに際し実践できる知識を得る目標を持つ。				
履修上の注意	生理学を理解するためには、解剖学の「からだの構造」、生理学の「からだの機能」の知識を統合させる必要がある。丸暗記でなく、「なぜそうなるのか」を「考える姿勢」を身につける。国家試験への対策を含めてより深く生理学の知識を深める。専門科目へと進み、疾患を理解し、その機能を回復させるうえでも必須である。				
成績評価方法	毎回実施する高い基準を置いた小テストの結果を加味した上で、本試験結果(100%)を主たる評価基準とする。				
教科書	教科書《標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野》生理学(医学書院),副教科書:はやわかり生理学ハンドブック(ナツメ社)				
参考書	シンプル生理学(南江堂),生理学テキスト(文光堂),標準生理学(医学書院)				

回 数	項 目	授業内容
第1・2回目	生命現象と人体	PTにとっての生理学、身体の階層性、生命現象、体内に含まれる水の重要性、臨床でも大事な体温、ホメオスタシスと負のフィードバックについて学ぶ
第3・4回目	細胞の構造と機能	細胞の構造と機能、細胞膜の電気現象 膜電位とは静止膜電位と活動電位の発生メカニズムについて学ぶ
第5・6回目	神経の興奮伝導と末梢神経(1)	神経細胞の構造、興奮の発生と伝導、末梢神経の種類について学ぶ
第7・8回目	神経の興奮と伝導と末梢神経(2)	自律神経、神経系の一つである生命維持機能を制御する自律神経径について学ぶ
第9・10回目	神経の興奮と伝導と末梢神経(3)	シナプスにおける興奮の伝達 神経細胞(ニューロン)はシナプスを介して隣接神経細胞および骨格筋に情報をいかに伝達するかを学ぶ
第11・12回目	中枢神経系(1)	中枢神経系とは、運動系に関わる骨格筋へと指令される大脳皮質から脊髄の運動ニューロンにどのように伝達されるかを学ぶ
第13・14回目	中枢神経系(2)	中枢神経系とは、運動や姿勢に関わるに関する運動系に関連する脳幹、小脳、間脳(視床と視床下部)について学ぶ
第15・16回目	中枢神経系(3)	脳の高次機能、意思、思考、言語、記憶(学習)、行動、情動、睡眠と覚醒(意識)などの中枢神経系の大脳皮質の構造と機能について学ぶ
第17・18回目	中枢神経系(4)	大脳基底核と脳梁、辺縁系、脳室と脳脊髄液・血液脳関門について学ぶ
第19・20回目	筋と骨(1)	筋の分類、骨格筋、心筋、平滑筋 筋収縮と興奮収縮連関について学ぶ
第21・22回目	筋と骨(2)	骨 骨の構造、骨の形成と吸収、骨の成長、骨の老化について学ぶ
第23・24回目	感覚(1)	感覚とは、体性感覚の特徴、内臓感覚と関連痛について学ぶ
第25・26回目	感覚(2)	特殊感覚 感覚末梢の受容器、中枢神経系への伝導路 感覚に関連する大脳皮質について学ぶ
第27・28回目	血液(1)	血液の構成と機能、赤血球、白血球 免疫機能について学ぶ
第29・30回目	血液(2)	血小板、血漿、血液型、血液凝固について学ぶ 前期学習のまとめ
備考	あらかじめ教科書をよく読んで予習して講義に臨み、教科書、ノートをもとに毎回復習を行い、知識の積み重ねを可能にしておくこと。各項目の節目において小テストを実施し、知識の整理を行う。	

令和7年度 シラバス

科目名	運動学Ⅰ (30/60)時間	前期	第Ⅰ学科1学年	講 師	鎌田 啓太
実務経験	理学療法士として5年以上の実務経験あり				
到達目標	基礎的な人体構造、機能の理解。それを自分なりに表出できるように。				
履修上の注意	理学療法学科学生としての自覚を持って臨むこと。				
成績評価方法	学科試験、出席状況等によって判定する				
教科書	基礎運動学(医歯薬出版)				
参考書	都度配布				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	運動学とは	運動学の定義、臨床上の運動学、国家試験の問題について
第2回目	運動学の基礎①	基本肢位p160、運動の面と軸p160-161、関節運動の表し方p40
第3回目	運動学の基礎② 関節の構造と種類	関節の構成要素p36-41 関節の種類(球関節、蝶番関節、鞍関節など)p40
第4回目	運動学の基礎③ 骨格筋	骨格筋の種類と構造p41-47、骨格筋の働きp48-55
第5回目	運動学の基礎④ 生体力学	力学、仕事量、エネルギーp185、てこp186-190
第6回目	上肢帯と肩関節の運動(1)	上肢帯と肩の構造(1)
第7回目	上肢帯と肩関節の運動(2)	上肢帯と肩の構造(2)
第8回目	上肢帯と肩関節の運動(3)	上肢帯と肩の機能(1)
第9回目	上肢帯と肩関節の運動(4)	上肢帯と肩の機能(2)
第10回目	肘関節と前腕の運動(1)	肘関節・前腕の構造
第11回目	肘関節と前腕の運動(2)	肘関節・前腕の機能
第12回目	手関節と手の運動(1)	手関節と手の構造
第13回目	手関節と手の運動(2)	手関節と手の機能
第14回目	上肢帯から上肢まとめ(1)	基本的な上肢の運動の復習
第15回目	上肢帯から上肢まとめ(2)	基本的な上肢の運動(実技)
備考	講義の進行により内容変更の可能性あり。	

令和7年度 シラバス

科目名	人間発達学 (30)時間	前期	第Ⅰ学科1学年	講 師	谷河 慎介
到達目標	国家試験の重要項目である運動発達、発達検査、反射、反応等の知識を得る				
履修上の注意	授業で学んだことを復習する習慣をつける				
成績評価方法	学科試験80% 小テスト20%				
教科書	イラストでわかる正常発達(医歯薬出版)				
参考書	特になし				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	発達概念	胎生期、新生児期、学童期、成人期、老年期の概念
第2回目	人間発達(発達理論)	エリクソンの発達理論、ピアジェの発達理論など
第3回目	発達検査	DENVERⅡ 田中ビネー知能検査など
第4回目	姿勢反射、反応	運動発達の背景、基盤 反射反応の有無、評価
第5回目	運動発達(0～3ヶ月)	非対称な姿勢から正中位指向まで
第6回目	運動発達(4～6ヶ月)	ボトムリフティングから方向転換まで
第7回目	運動発達(7～9ヶ月)	機能的な運動での移動方法など
第8回目	運動発達(10～12ヶ月)	四つ這い移動から座位姿勢変換など
第9回目	運動発達(13～18ヶ月)	初期歩行から安定した独り歩き
第10回目	6歳までの発達	微細運動から言語、社会的発達
第11回目	上肢機能の発達	目と手の協調性や体のバランスなど
第12回目	ADLの発達	遊び、食事、排せつ、更衣
第13回目	認知、社会性の発達	環境刺激の情報処理、感覚、知覚、認知
第14回目	学童、青年の発達	からだの急激な成長、生理的湾曲など
第15回目	成人老人期の発達	肥満、収縮期血圧の上昇、老化まで
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	リハビリテーション学Ⅰ	(30)時間	前期	第Ⅰ学科1学年	講 師	中本 麗奈
実務経験	理学療法士として6年以上の実務経験あり					
到達目標	医療・福祉分野における理学療法士の業務や役割について学ぶ。 リハビリテーションチームについて理解する。					
履修上の注意	座学と実技での講義を実施する。					
成績評価方法	定期試験(100%)					
教科書	PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論(診断と治療社)					
参考書						

回 数	項 目	授業内容
第1回目	リハビリテーションとは	リハビリテーションの歴史・理念 リハビリテーション・マインドとは
第2回目	リハビリテーションの領域	医学的・社会的・職業的・教育的リハビリテーション
第3回目	リハビリテーションの介入	急性期・回復期・生活期リハビリテーション
第4回目	リハビリテーションチーム	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士について
第5回目	理学療法士について	理学療法士の定義・役割・業務内容について
第6回目	理学療法について	運動療法・物理療法とは
第7回目	義肢装具について	装具・義足の目的・役割について
第8回目	義肢装具について	杖・車椅子について
第9回目	運動療法について	立位・歩行練習について
第10回目	運動療法について	関節可動域運動について・ストレッチについて
第11回目	運動療法について	筋力強化について
第12回目	物理療法について	温熱療法・寒冷療法・水治療法について
第13回目	障害について	国際障害分類(ICIDH)・国際生活機能分類(ICF)
第14回目	障害者福祉制度について	障害受容について・ノーマライゼーション・IL運動について
第15回目	まとめ	試験対策
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	保健医療福祉制度論 (30)時間	前期	第Ⅰ学科1学年	講 師	鎌田 啓太
実務経験	理学療法士として5年以上の実務経験あり				
到達目標	わが国の社会保障制度の理解				
履修上の注意	パワーポイントを用いて講義を行います。				
成績評価方法	本試験100% 出席状態も加味します				
教科書	なし（プリント配布）				
参考書	配布資料				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	社会保障	総論 社会保障制度の仕組み
第2回目	医療保険Ⅰ	社会保険(協会管掌健康保険)について
第3回目	医療保険Ⅱ	国民保険(国民健康保険)について
第4回目	後期高齢者医療	長寿医療制度(老人医療制度から後期高齢者医療制度へ)
第5回目	介護保険制度Ⅰ	制度の成り立ち
第6回目	介護保険制度Ⅱ	制度の内容
第7回目	労働者保険Ⅰ	労働災害保険について
第8回目	労働者保険Ⅱ	雇用保険について
第9回目	障害者総合支援法Ⅰ	制度の変遷
第10回目	障害者総合支援法Ⅱ	制度の内容
第11回目	年金保険Ⅰ	総論 年金とは
第12回目	年金保険Ⅱ	国民年金
第13回目	年金保険Ⅲ	厚生年金
第14回目	まとめⅠ	まとめ ①
第15回目	まとめⅡ	まとめ ②
備考	講義の進捗により、変更いたします。	

令和7年度 シラバス

科目名	理学療法概論 (30)時間	前期	第Ⅰ学科1学年	講 師	橋本 貴之
実務経験	理学療法士として14年以上の実務経験あり				
到達目標	講義・グループワークにより理学療法士の職業理解を深める。PTプロセスを理解する。				
履修上の注意	会話を重んじた能動的で自主性に富んだ授業をめざすため、積極的に発言してください。				
成績評価方法	最終週(15コマ終了後)に試験(100点満点)と出席状況で評価する。				
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法概論(中山書店)				
参考書	リハビリテーション総論(診断と治療社)				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	理学療法概論 総論①	理学療法・リハビリテーションの歴史・理念・定義を説明できる
第2回目	理学療法概論 総論②	医療現場の実態・クリニカルパス・EBMについて
第3回目	各論①	チーム医療 職能団体 ADL、QOLについて
第4回目	各論②	理学療法プロセスの概略・流れを理解する
第5回目	各論③	NEED HOPE 情報収集について学ぶ PT評価検査測定 of 列挙・想定
第6回目	各論④	模擬症例を立て、PT評価検査測定 of 列挙・実施
第7回目	実技演習	ROM、MMT、形態測定の実施①
第8回目	実技演習	ROM、MMT、形態測定の実施②
第9回目	各論⑦	統合と演習を実践、記述できる
第10回目	各論⑧	問題点の抽出 ICIDHとICFの実践ができる
第11回目	各論⑨	短期・長期 ゴール設定が出来る。 個人レジュメの作成
第12回目	各論⑩	実技:治療プログラム①
第13回目	各論⑪	実技:治療プログラム②
第14回目	発表	完成したレジュメの個人発表会実施
第15回目	PTプロセス まとめ	PTプロセスの復習、振り返り
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	理学療法学基礎演習Ⅰ	(30)時間	前期	第Ⅰ学科1学年	講 師	吉田 峻
実務経験	理学療法士として5年以上の実務経験あり					
到達目標	講義、体験や実技を通して、理学療法分野における基礎知識を習得する。					
履修上の注意	私語を慎み、主体的に参加すること。					
成績評価方法	学科試験(100%) 出席状況も加味					
教科書	配付資料で対応					
参考書	都度配布					

回 数	項 目	授業内容
第1回目	人体の構造 ①	上肢骨の名称について 関節運動について
第2回目	人体の構造 ②	下肢骨の名称について 関節運動について
第3回目	人体の構造 ③	上肢筋について 筋名
第4回目	人体の構造 ④	下肢筋について 筋名
第5回目	人体の構造 ⑤	神経系について 中枢神経系
第6回目	人体の構造 ⑥	神経系について 末梢神経系
第7回目	人体の構造 ⑦	筋収縮様式
第8回目	人体の構造 ⑧	骨の触診・筋の触診・ランドマーク
第9回目	人体の構造 ⑨	人体可動域体験
第10回目	人体の構造 ⑩	人体筋力検査体験
第11回目	呼吸器・循環器について	呼吸器・循環器の解剖と生理
第12回目	バイタルチェック	呼吸・血圧・脈拍測定
第13回目	車椅子・補装具について	車椅子、杖などについて
第14回目	医療面接	理学療法についての医療面接
第15回目	医療面接(実技)	理学療法についての医療面接
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	心理学 (30)時間	後期	第Ⅰ学科1学年	講 師	専任教員
到達目標	心のはたらきのルールおよび心理学的介入のための基礎知識を学ぶ				
履修上の注意	講義項目についての理解を深めるため履修者による発表の時間を設けることがあります				
成績評価方法	学科試験(70%)・平常点(30%)				
教科書	リハベーシック心理学・臨床心理学				
参考書	あればその都度紹介します				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	記憶の構造とはたらき	記憶の区分とはたらき、感覚記憶と短期記憶
第2回目	記憶の構造とはたらき	長期記憶、記憶の障害
第3回目	知性と感性	知能、知能検査、知能の発達と障害
第4回目	心の発達と心の危機	心の発達段階と問題、子どもの心の発達
第5回目	心の発達と心の危機	親子関係の問題、中年以降の心理的発達
第6回目	パーソナリティ	パーソナリティの理論、パーソナリティの形成
第7回目	パーソナリティ	パーソナリティの諸相、パーソナリティの測定
第8回目	学びのルール:学習理論	古典的条件づけ、道具的条件づけ
第9回目	学びのルール:学習理論	認知学習、情報処理の自動化
第10回目	感情	情動、感情の機能、ムード、感情の障害
第11回目	動機と覚醒水準	動機づけとは、動機づけの種類
第12回目	動機と覚醒水準	動機間の関係、動機づけと覚醒水準
第13回目	予備日	不足部分の補充
第14回目	まとめ(1)	第1週～第13週目の復習
第15回目	まとめ(2)	第1週～第13週目の復習
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	病理学概論 (30)時間	後期	第 I 学科1学年	講 師	非常勤講師
到達目標	病理学はヒトの病気の成り立ちを学ぶ基礎科目と臨床科目との架け橋となる学問である。理学療法学の専門家をめざす学生を対象に、病気の理屈―病気とは何か、その原因、転帰―を学習します。病気についての知識、理解を深め、さらに興味を持てるようにしたい。国家試験にも対応したい。				
履修上の注意	多くの学生が病気に対する知識や理解を深め、興味をもちつつ自分の専門分野を進んで行けることを期待する				
成績評価方法	毎回小テストを行いこの結果を元に 筆記本試験100%を目指して欲しい				
教科書	医療系学生のための病理学(講談社)				
参考書	必要に応じ講義資料を配付する				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	病理学総論(1)	病理学で学ぶこと 病理学の概要 病因論 先天性疾患と遺伝病①
第2回目	病理学総論(2)	先天性疾患と遺伝病② 前回に続き先天異常と遺伝子異常について学ぶ
第3回目	病理学総論(3)	細胞・組織障害 細胞の損傷とその原因 組織の変性と細胞死 アポトーシス
第4回目	病理学総論(4)	物質代謝傷害 修復と再生 創傷治癒 肉芽 器質化
第5回目	病理学総論(5)	循環障害 局所の循環障害(浮腫 充血 うっ血 出血 血栓症 塞栓症 虚血と梗塞)
第6回目	病理学総論(6)	炎症と感染症 炎症の定義 炎症に於ける血管・白血球の反応
第7回目	病理学総論(7)	免疫と免疫異常 先天性免疫不全症候群、後天的免疫不全症候群(AIDS)
第8回目	病理学総論(8)	腫瘍 腫瘍の概念 腫瘍の形態と分類
第9回目	病理学各論(1)	循環器系 全身の循環障害(ショック 高血圧症 播種性血管内凝固症候群)
第10回目	病理学各論(2)	呼吸器系 それぞれの疾患について病態およびその形成メカニズム
第11回目	病理学各論(3)	消化器系 消化器系疾患の主要疾患
第12回目	病理学各論(4)	造血器系 造血器疾患に関して骨髄を中心に 悪性リンパ腫
第13回目	病理学各論(5)	泌尿器系 生殖器系 腎・泌尿器系、生殖器系の主要疾患
第14回目	病理学各論(6)	運動器系及び軟部組織系 運動器系の主要疾患
第15回目	病理学各論(7)	脳・神経系 皮膚・感覚器系 神経系の異常所見 皮膚については代表的な炎症性疾患・良性腫瘍・悪性腫瘍に関して概説
備考	講義範囲は教科書を読んでおいて下さい。講義終了毎に小テストを実施します。	

令和7年度 シラバス

科目名	解剖学Ⅱ	(60)時間	後期	第Ⅰ学科1学年	講 師	非常勤講師
到達目標	リハビリの基礎となる人体の構造を機能との関連で理解する					
履修上の注意	用語の記憶にとらわれず、ストーリーとして内容の理解に努める					
成績評価方法	学期末の筆記試験					
教科書	解剖学アトラスⅠ～Ⅲ(文光堂)					
参考書	なし					

回 数	項 目	授業内容
第1・2回目	神経系－1	①脳の区分 ②大脳皮質(1次中枢、連合野)
第3・4回目	神経系－2	①錐体路と錐体外路 ②小脳と基底核(運動の調節)
第5・6回目	神経系－3	①脳幹(意識と睡眠) ②大脳辺縁系(感情・記憶)
第7・8回目	神経系－4	①視床 ②脊髓(感覚の伝導路)
第9・10回目	神経系－5	①骨髄 ②脳の血管
第11・12回目	神経系－6	脳神経Ⅰ、Ⅱ:鼻腔(嗅覚)、眼(視覚)
第13・14回目	神経系－7	脳神経Ⅲ、Ⅳ、Ⅵ:眼球運動
第15・16回目	神経系－8	脳神経Ⅴ、Ⅶ、Ⅷ:顔(表情・そしゃく)、耳(聴・平衡覚)
第17・18回目	神経系－9	脳神経Ⅸ～Ⅻ:咽頭(えん下)、喉頭(発声)
第19・20回目	内臓－1	循環器(心臓、血管)
第21・22回目	内臓－3	呼吸器(気管、肺)
第23・24回目	内臓－3	泌尿器(腎、膀胱)
第25・26回目	内臓－4	消化管(食道～一二指腸)
第27・28回目	内臓－5	消化管(空腸～直腸)、肝・胆・膵
第29・30回目	内臓－6	血液、リンパ器官、内分泌器官、生殖器
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	生理学Ⅱ	(60)時間	後期	第Ⅰ学科1学年	講 師	外部講師
到達目標	前期に引き続き正常な生体の機能について、各器官独自の機能の発現と調節機序に基づいて理解させることを目指す。それら諸器官相互の協調的な働きにより初めて全体としての人体の働きが発現することを理解させる。そのために生体現象の機序をできるだけわかりやすく総合的に理解させる。また、将来、疑問や問題点が生じたときに、自ら参考書を参照し、自分自身で考える力を備えさせる。					
履修上の注意	生理学を理解するためには、解剖学の「からだの構造」、生理学の「からだのしくみ」の知識を統合させる必要がある。丸暗記でなく、「なぜそうなるのか」を「考える姿勢」を身につける。国家試験への対策を含めてより深く生理学の知識を深める。専門科目へと進み、疾患を理解し、その機能を回復させるうえでも必須である。					
成績評価方法	実施した小テストも加味し、本試験結果を主たる評価基準とする。					
教科書	教科書：《標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野》生理学(医学書院) 副教科書：はやわかり生理学ハンドブック(ナツメ社)					
参考書	シンプル生理学(南江堂) 生理学テキスト(文光堂) 標準生理学(医学書院)					

回 数	項 目	授業内容
第1・2回目	心臓と循環 1	血液の循環、心臓の興奮と刺激伝導系、心電図
第3・4回目	心臓と循環 2	血液のは拍出と血圧、心周期、前負荷・後負荷と収縮性、血圧の調節
第5・6回目	心臓と循環 3	微小循環と物質交換、静脈還流、臓器循環、リンパ循環
第7・8回目	呼吸とガスの運搬 1	外呼吸と内呼吸、気道と肺胞、呼吸運動
第9・10回目	呼吸とガスの運搬 2	呼吸気量、ガス交換とガス運搬
第11・12回目	呼吸とガスの運搬 3	呼吸の調節、病的呼吸
第13・14回目	尿の生成と排泄 1	腎臓の役割、尿の生成、クリアランス、排尿
第15・16回目	尿の生成と排泄 2	尿の性状と排尿異常、酸塩基平衡
第17・18回目	消化と吸収 1	消化の役割、口腔内消化と嚥下、食道における食物輸送、胃の役割と消化、十二指腸における消化と栄養素の吸収
第19・20回目	消化と吸収 2	大腸の役割、肝臓の役割
第21・22回目	内分泌 1	内分泌機能とホルモン、各内分泌腺から分泌されるホルモン1
第23・24回目	内分泌 2	各内分泌腺から分泌されるホルモン2
第25・26回目	代謝と体温	栄養素、エネルギー代謝、体温
第27・28回目	生殖と発生	男性生殖機能、女性生殖機能、受精・着床・胎児の発生
第29・30回目	成長と老化、生理学のまとめ	成長と老化、生理学Ⅱまとめと知識の整理
備考	あらかじめ教科書をよく読んで予習して講義に臨み、教科書、ノートをもとに毎回復習を行い、知識の積み重ねを可能にしておくこと。	

令和7年度 シラバス

科目名	運動生理学 (30)時間	後期	第 I 学科1学年	講 師	非常勤講師
到達目標	近年、若年層においては、運動を全く実施せずに運動不足や体力低下を伴い、小児生活習慣病に陥る者と、クラブチームに所属し、幼少期から積極的に競技スポーツに取り組む者の2極化傾向にある。いずれの者においても、正しい運動指導、処方が必要であり、特に前者においては、健康のための正しい運動の知識や科学的根拠に基づいた運動指導、後者においても、予防医学の観点から支援し、科学的根拠に基づいたトレーニングプログラムの処方が望まれる。そこで、本講義では、運動中の生体反応、生理学的応答を呼吸循環器系、免疫系、神経系、筋骨格系、内分泌系から学び、運動生理学、健康科学の最近の状況(海外、国内論文引用)を踏まえて、最新の知見を把握し、理解することを目的とする。				
履修上の注意	授業はパワーポイントのスライドを用いて行い、その内容を踏まえてワークシートを完成させる。授業にて多くの資料を配布するため、資料をまとめるファイルなどが必要となる。				
成績評価方法	授業内課題(30%)、振り返りシート(30%)、受講状況(10%)、期末テスト(30%)で評価を行う。				
教科書	特になし				
参考書	参考図書については授業にて適宜説明する				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	運動の必要性	健康寿命延伸に向けての運動の必要性、今後の健康増進や介護予防の展開
第2回目	運動を筋肉①	筋の役割と機能、筋線維の特性、筋収縮様式
第3回目	運動を筋肉②	筋疲労と乳酸、ロコモティブシンドロームと運動
第4回目	運動と循環①	心臓の構造と機能、血管の役割と血管内皮機能
第5回目	運動と循環②	血管の役割、心筋とポンプ能力、心拍出量と運動
第6回目	運動と呼吸①	肺の構造と機能、口腔および気道の構造と機能
第7回目	運動と呼吸②	呼吸筋の働き、酸素摂取量と運動、最大酸素摂取量と運動
第8回目	運動と神経系①	脳機能と構造、大脳の役割、小脳と運動
第9回目	運動と神経系②	間脳と運動、末梢神経と運動
第10回目	運動と骨①	骨吸収と骨形成、ホルモンと骨成長
第11回目	運動と骨②	運動の骨強度への貢献、骨粗しょう症予防と運動
第12回目	運動と代謝①	脂質代謝と運動、肥満予防と運動
第13回目	運動と代謝②	糖代謝と運動、糖尿病と運動
第14回目	運動と内分泌	運動により分泌される内分泌系、運動による効用
第15回目	まとめ	後期実施分の振り返り、期末試験対策
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	病態運動学 (30/60)時間	後期	第Ⅰ学科1学年	講 師	専任教員
実務経験	理学療法士として18年以上の実務経験あり				
到達目標	理学療法士として臨床上必要な姿勢と基本動作について学ぶ				
履修上の注意	臨床及び国家試験に直結した内容として緊張感を持って臨むこと				
成績評価方法	学科試験、姿勢・動作観察レポート、歩行レポート、出席状況・授業態度を含めた総合評価				
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学(中山書店)				
参考書	実践！動作分析(医歯薬出版)、標準理学療法学専門分野 臨床動作分析(医学書院) 15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学(中山書店)				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	理学療法の実際 ①	姿勢・動作を理解するための運動力学
第2回目	理学療法の実際 ②	運動力学の基礎(1)－姿勢の生体力学
第3回目	理学療法の実際 ③	運動力学の基礎(2)－動作の生体力学
第4回目	理学療法の実際 ④	姿勢と保持
第5回目	理学療法の実際 ⑤	正常動作(1)－起き上がり動作、寝返り動作と床からの立ち上がり動作
第6回目	理学療法の実際 ⑥	正常動作(2)－椅子からの立ち上がり動作、歩行
第7回目	理学療法の実際 ⑦	高齢者の姿勢・動作の特徴と分析
第8回目	理学療法の実際 ⑧	脳血管障害後片麻痺の姿勢・動作の特徴と分析
第9回目	理学療法の実際 ⑨	半側無視を有する脳血管障害後片麻痺の姿勢・動作の特徴と分析
第10回目	理学療法の実際 ⑩	対麻痺・四肢麻痺の姿勢・動作の特徴と分析
第11回目	理学療法の実際 ⑪	パーキンソニズムの姿勢・動作の特徴と分析
第12回目	理学療法の実際 ⑫	運動失調の姿勢・動作の特徴と分析
第13回目	理学療法の実際 ⑬	脳性麻痺の姿勢・動作の特徴と分析
第14回目	理学療法の実際 ⑭	変形性股関節症・膝関節症の術前・術後の姿勢・動作の特徴と分析
第15回目	理学療法の実際 ⑮	下肢切断・義足使用の姿勢・動作の特徴と分析
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	病態運動学 (30/60)時間	後期	第 I 学科1学年	講 師	専任教員
実務経験	理学療法士として13年以上の実務経験あり				
到達目標	各種検査測定の意義と方法を理解する				
履修上の注意	忘れ物をしない 私語をしない				
成績評価方法	筆記試験 100%				
教科書	理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法(神陵文庫)				
参考書	随時プリント配布				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	オリエンテーションと評価の意義	講義オリエンテーション
第2回目	評価の意義	評価の基礎と概要 情報収集
第3回目	感覚/痛みの評価	表在感覚と深部感覚・痛みの評価
第4回目	反射検査	反射とは 検査方法
第5回目	筋緊張検査	筋緊張とは 検査方法
第6回目	姿勢バランス検査	姿勢バランスの概要
第7回目	協調性検査	協調運動障害と検査の実際
第8回目	中間試験	中間テスト(30点)
第9回目	症例①	脳卒中
第10回目	症例②	大腿骨頸部骨折
第11回目	症例③	パーキンソン病
第12回目	症例④	関節リウマチ
第13回目	症例⑤	変形性関節症
第14回目	症例⑥	末梢神経障害
第15回目	まとめ	まとめとテスト対策
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	運動学Ⅰ	(30/60)時間	後期	第Ⅰ学科1学年	講 師	専任教員
実務経験	理学療法士として18年以上の実務経験あり					
到達目標	基礎的な人体構造、機能の理解。それを自分なりに表出できるように。					
履修上の注意	理学療法学科学生としての自覚を持って臨むこと。					
成績評価方法	学科試験、出席状況等によって判定する					
教科書	基礎運動学(医歯薬出版)					
参考書	都度配布					

回 数	項 目	授業内容
第1回目	下肢の運動総論	下肢の運動学的特徴
第2回目	下肢帯の運動(1)	下肢帯の構造
第3回目	下肢帯の運動(1)	下肢帯の機能
第4回目	股関節の運動(1)	股関節の構造
第5回目	股関節の運動(2)	股関節の機能
第6回目	膝関節の運動(1)	膝関節の構造
第7回目	膝関節の運動(2)	膝関節の機能
第8回目	足関節・足部の運動(1)	足関節・足部の構造
第9回目	足関節・足部の運動(2)	足関節・足部の機能
第10回目	下肢帯から下肢まとめ(1)	基本的な下肢の運動まとめ
第11回目	下肢帯から下肢まとめ(2)	基本的な下肢の運動(実技)
第12回目	頸部/体幹の運動(1)	頸部/体幹の運動について(1)
第13回目	頸部/体幹の運動(2)	頸部/体幹の運動について(2)
第14回目	頸部/体幹の運動(3)	頸部/体幹の運動について(3)
第15回目	姿勢について	姿勢について
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	運動学Ⅱ (30)時間	後期	第Ⅰ学科1学年	講 師	専任教員
実務経験	理学療法士として18年以上の実務経験あり				
到達目標	正常歩行動作や基本的動作の基本的特性を、解剖学、運動学、運動力学の観点から理解する。				
履修上の注意	理学療法学科学生としての自覚を持って臨むこと。				
成績評価方法	学科試験、出席状況等によって判定する				
教科書	基礎運動学(医歯薬出版) 実践！動作分析(医歯薬出版)				
参考書	都度配布				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	オリエンテーション・運動学とは	身体運動の面と軸 身体に働く力について てこの原理について
第2回目	生体の構造・機能	運動器の構造と機能 神経系
第3回目	姿勢	姿勢と重心 立位姿勢に働く力
第4回目	体幹・股関節・膝関節・足関節の アライメントについて(1)	立位姿勢において、体幹・股関節・膝関節・足関節に働く外力と内力の 関係について(1)
第5回目	体幹・股関節・膝関節・足関節の アライメントについて(2)	立位姿勢において、体幹・股関節・膝関節・足関節に働く外力と内力の 関係について(2)
第6回目	体幹・股関節・膝関節・足関節の アライメントについて(3)	立位姿勢において、体幹・股関節・膝関節・足関節に働く外力と内力の 関係について(3)
第7回目	歩行について(1)	歩行の基礎
第8回目	歩行について(2)	歩行時における各関節の動き
第9回目	歩行について(3)	歩行時における筋活動について
第10回目	歩行について(4)	歩行における推進力
第11回目	歩行について(5)	階段歩行での関節の動き、筋活動について
第12回目	起居動作・立ち上がり・ 着座動作について(1)	各動作の基礎
第13回目	起居動作・立ち上がり・ 着座動作について(2)	各動作における各関節の動きや筋活動について
第14回目	起居動作・立ち上がり・ 着座動作について(3)	階段歩行での関節の動き、筋活動について
第15回目	講義まとめ	講義まとめ
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	理学療法基礎演習Ⅱ (30)時間	後期	第Ⅰ学科1学年	講 師	専任教員
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり				
到達目標	傷害別・疾患別リハビリテーションの実際を学習する(リハビリテーション医学)				
履修上の注意	医療人の必須スキルとして真剣に授業に臨むこと				
成績評価方法	学科試験(100%) 出席状況も加味する				
教科書	リハビリテーション総論(診断と治療社)				
参考書	特になし				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	関節拘縮・筋力低下	リハビリテーション医学の概念
第2回目	運動麻痺と運動学習	QOL評価
第3回目	異常歩行と歩行訓練	廃用症候群
第4回目	失語症と言語聴覚療法	運動障害
第5回目	失認と失行、高次脳機能障害	歩行障害
第6回目	摂食嚥下障害、排泄障害	呼吸循環障害
第7回目	痙縮のコントロール	摂食嚥下
第8回目	老化と介護予防	痙縮・固縮
第9回目	疾患各論 ①	脳卒中(急性期、回復期)
第10回目	疾患各論 ②	パーキンソン症候群、脊髄小脳変性症
第11回目	疾患各論 ③	多発性硬化症、神経・筋疾患
第12回目	疾患各論 ④	脊髄損傷、外傷性脳損傷
第13回目	疾患各論 ⑤	四肢切断、関節リウマチ、慢性疼痛
第14回目	疾患各論 ⑥	脳性麻痺、心筋梗塞と虚血性心疾患
第15回目	疾患各論 ⑦	呼吸器疾患、悪性腫瘍、生活習慣病
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	理学療法学基礎演習Ⅲ (30)時間	後期	第Ⅰ学科1学年	講 師	専任教員
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり				
到達目標	理学療法の土台となる医学系科目(解剖学・生理学)の知識を固める				
履修上の注意	医療人の必須スキルとして真剣に授業に臨むこと				
成績評価方法	定期試験(100%)				
教科書	理学療法士・作業療法士 国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学(医歯薬出版)				
参考書	必要に応じて配布する				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	解剖生理学Ⅰ (植物性機能) ①	循環器系
第2回目	解剖生理学Ⅰ (植物性機能) ②	消化器系
第3回目	解剖生理学Ⅰ (植物性機能) ③	泌尿器系
第4回目	解剖生理学Ⅰ (植物性機能) ④	生殖器系
第5回目	解剖生理学Ⅰ (植物性機能) ⑤	呼吸器系
第6回目	解剖生理学Ⅰ (植物性機能) ⑥	代謝系
第7回目	解剖生理学Ⅰ (植物性機能) ⑦	体温調節
第8回目	解剖生理学Ⅰ (植物性機能) ⑧	内分泌系、細胞の発生と組織
第9回目	解剖生理学Ⅱ (動物性機能) ①	中枢神経系 ①
第10回目	解剖生理学Ⅱ (動物性機能) ②	中枢神経系 ②
第11回目	解剖生理学Ⅱ (動物性機能) ③	末梢神経系 ①
第12回目	解剖生理学Ⅱ (動物性機能) ④	末梢神経系 ②
第13回目	解剖生理学Ⅱ (動物性機能) ⑤	骨格筋
第14回目	解剖生理学Ⅱ (動物性機能) ⑥	感覚
第15回目	解剖生理学Ⅱ (動物性機能) ⑦	体表解剖
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	理学療法学基礎演習Ⅳ (30)時間	後期	第Ⅰ学科1学年	講 師	専任教員
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり				
到達目標	理学療法の土台となる医学系科目(運動学・人間発達学)の知識を固める 筋の起始停止の学習				
履修上の注意	医療人の必須スキルとして真剣に授業に臨むこと				
成績評価方法	定期試験(100%)				
教科書	基礎運動学(医歯薬出版) 理学療法士・作業療法士 国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学(医歯薬出版)				
参考書	特になし				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	筋の起始停止 ①	頸部筋の起始停止
第2回目	筋の起始停止 ②	体幹筋の起始停止
第3回目	筋の起始停止 ③	上肢筋の起始停止 ①
第4回目	筋の起始停止 ④	上肢筋の起始停止 ②
第5回目	筋の起始停止 ⑤	下肢筋の起始停止 ①
第6回目	筋の起始停止 ⑥	下肢筋の起始停止 ②
第7回目	筋の起始停止確認試験	第1回目～6回確認試験
第8回目	基礎医学復習(運動学) ①	運動学総論、骨格系
第9回目	基礎医学復習(運動学) ②	顔面・頭頸部・体幹の運動と筋、呼吸運動
第10回目	基礎医学復習(運動学) ③	上肢の運動、上肢の筋
第11回目	基礎医学復習(運動学) ④	下肢の運動、下肢の筋
第12回目	基礎医学復習(運動学) ⑤	姿勢と歩行
第13回目	基礎医学復習(運動学) ⑥	運動学習
第14回目	基礎医学復習(人間発達学) ①	小児の反射・反応
第15回目	基礎医学復習(人間発達学) ②	運動発達・発達評価
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	理学療法評価学Ⅰ (30)時間	後期	第Ⅰ学科1学年	講 師	専任教員
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり				
到達目標	形態測定、関節可動域測定について学ぶ				
履修上の注意	演習中心となります。私語をせず取り組むこと。				
成績評価方法	筆記試験(50%)・実技試験(50%)				
教科書	理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法(神陵文庫)				
参考書	特になし				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	形態測定総論	四肢長、四肢周径の計測方法、ランドマークの確認
第2回目	形態測定演習 ①	四肢長の測定(結果の記載、報告含む)
第3回目	形態計測演習 ②	四肢長の測定②、四肢周径の測定
第4回目	関節可動域測定総論 ①	測定の方法(肢位、基本軸、移動軸、参考可動域、数値の見方)、留意点
第5回目	関節可動域測定総論 ②	運動方向、可動域、各測定における注意点の確認(自分の体で確認)
第6回目	関節可動域測定演習 ①	肩関節の測定
第7回目	関節可動域測定演習 ②	肘関節、前腕、手関節の測定
第8回目	関節可動域測定演習 ③	股関節の測定
第9回目	関節可動域測定演習 ④	膝関節、足関節の測定
第10回目	関節可動域測定演習 ⑤	肩甲帯、頸部の測定
第11回目	関節可動域測定演習 ⑥	体幹、手指の測定
第12回目	形態測定・関節可動域測定 復習 ①	形態測定・関節可動域測定の全部位を復習 ①
第13回目	形態測定・関節可動域測定 復習 ②	形態測定・関節可動域測定の全部位を復習 ②
第14回目	形態測定・関節可動域測定 復習 ③	形態測定・関節可動域測定の全部位を復習 ③
第15回目	形態測定・関節可動域測定 復習 ④	形態測定・関節可動域測定の全部位を復習 ④
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	理学療法評価学Ⅱ (30)時間	後期	第Ⅰ学科1学年	講 師	専任教員
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり				
到達目標	新・徒手筋力検査法の各種検査が健常者に対して適切に実施できる				
履修上の注意	ユニフォームを着用すること、装飾品は外すこと、測定器具を持参すること、携帯電話は鞆にしまっておくこと				
成績評価方法	筆記試験(30%)、実技試験(70%) ※授業態度が不良な者は減点します。				
教科書	新・徒手筋力検査法(協同医書出版社)				
参考書					

回 数	項 目	授業内容
第1回目	オリエンテーション	筋力測定とは
第2回目	上肢 ①	肩関節の筋力
第3回目	上肢 ②	肩関節の筋力
第4回目	上肢 ③	肘関節の筋力
第5回目	上肢 ④	手関節の筋力
第6回目	上肢 ⑤	肩甲骨の筋力
第7回目	上肢 ⑥	手指の筋力
第8回目	下肢 ①	股関節の筋力
第9回目	下肢 ②	膝関節の筋力
第10回目	下肢 ③	足関節の筋力
第11回目	下肢 ④	足趾の筋力
第12回目	脳神経	脳神経支配筋の筋力
第13回目	頸部	頭頸の筋力
第14回目	体幹	体幹の筋力
第15回目	まとめ	これまでのまとめ
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	物理療法学 (30)時間	後期	第 I 学科1学年	講 師	専任教員
実務経験	理学療法士として7年以上の実務経験あり				
到達目標	物理療法を理学療法の一手段として活用でき、より多くの患者の治療に貢献できるようになる。 適応・禁忌を確実に覚える。				
履修上の注意	実技の際はジャージ等動きやすい服装で行う				
成績評価方法	筆記試験(100%)				
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 物理療法学(中山書店)				
参考書					

回 数	項 目	授業内容
第1回目	物理療法の基礎	分類と種類、臨床適応の流れ、対象
第2回目	温熱療法	伝導熱 ホットパック、パラフィン
第3回目	温熱療法	輻射熱 赤外線療法
第4回目	温熱療法	エネルギー変換熱 超短波、極超短波療法
第5回目	光線療法	紫外線療法、レーザー療法
第6回目	寒冷療法	各種寒冷療法
第7回目	水治療法	過流浴、気泡浴、交代浴
第8回目	超音波療法	超音波療法の原理、特性、適応、禁忌
第9回目	電気刺激療法 ①	総論
第10回目	電気刺激療法 ②	経皮的神経電気刺激、干渉波電流、微弱電流刺激
第11回目	電気刺激療法 ③	神経筋電気刺激、高電圧パルス電流 ロシアンカレント、筋電誘発電気刺激
第12回目	電気刺激療法 ④	機能的電気刺激療法、バイオフィードバック療法
第13回目	牽引療法	牽引療法の適応、禁忌、効果、種類
第14回目	マッサージ療法	目的、作用、方法
第15回目	リスク管理	機器のリスク、点検、医療事故、危険予知
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	臨床見学実習 (45)時間	後期	第 I 学科1学年	講 師	専任教員 臨床実習指導者
到達目標	1. 実際の医療施設における理学療法の外観を学び、理学療法士の業務について目で見て感じ学ぶ。 2. 医療の現場において様々な場面に適切な接遇で臨めるようになる。 3. 対象者様や病院スタッフとスムーズにコミュニケーションを取れるようになる。				
履修上の注意	各実習施設に応じて準備すること。				
成績評価方法	実習前評価[OSCE](20%)、実習施設評価(60%)、実習後評価[実習報告会](20%)				
教科書	特になし				
参考書	1年次に購入したすべての教科書				

講義計画・講義内容	
1. 実習は同一の臨床実習施設において1週間行われる。 2. 内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、患者と直接かかわっていく。他職種とのかかわりや理学療法士の業務における治療・評価のイメージをつける。 3. 1年次の授業で学んだ知識を実際の臨床現場で体験し、理解を深める。 4. 学内においては実習前に実習前実技試験、実習終了後に実習報告会(発表)を行う。	
臨床見学実習では、実際の医療施設での見学実習を行う。実際の理学療法士の仕事の業務や他職種との連携を目的の当たりにし、チーム医療についてのイメージを身に着ける。また、社会人としてのマナーや接遇について、実際の患者やスタッフのやり取りを通して学ぶ。これから学習していく理学療法についてのモチベーションの向上とイメージを確立させる。	
備考	